

西谷浄水場の再整備の進捗状況について

西谷浄水場では、「①耐震性が不足しているろ過池と排水池の整備」、「②水源の水質状況に対応できる粒状活性炭処理の導入」、「③相模湖系統の水利権水量の全量処理を可能とするための処理能力増強」を目的とし（図 1）、浄水処理施設と排水処理施設の再整備を進めています。（図 2）

また、これに合わせて、「導水能力の増強と耐震化」を図るため、川井接合井から西谷浄水場までの新たなルートに、シールド工事で導水管の整備を進めています。（図 3）

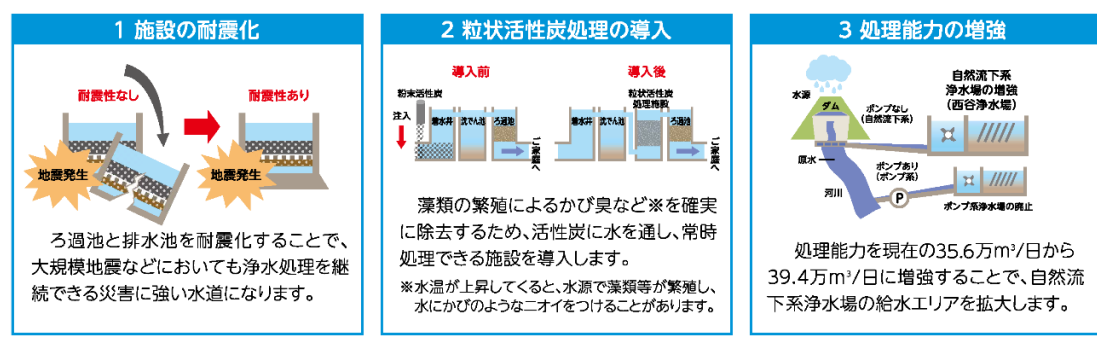


図 1 事業の目的

1 進捗状況

(1) 浄水処理施設

令和 6 年度は、沈でん池の改良工事や、ろ過池新設のための旧配水池の解体工事などを進めました（写真 1）。一方、大正時代の水道施設の残骸とみられるレンガ片（写真 2）やコンクリートガラが、敷地内全域において、土の中に混在していることが判明しました。これらは法令により産業廃棄物として取り扱うため、土砂と分別する必要がありますが、分別機械では擦り抜けてしまう大きさのため、手作業で取り除く（写真 3）こととなりました。工期を短縮するため、並行して、レンガ混じり土砂の状態のまま、外部に処理を委託していますが、それでもなお工程が約 2 年 6 か月遅れる見通しとなりました。

(2) 排水処理施設

令和 6 年度は、排水池、脱水機棟、受電・自家発棟の築造工事を進めました。7 年度は、既設排水池の耐震補強、濃縮槽や返送池の躯体補修、電気設備の新旧切り替えなどの工事を進めます（写真 4）。予定どおり 9 年度の工事完了を見込んでいます。

(3) 相模湖系導水路

シールド掘進によるトンネル築造は、現時点で川井接合井立坑から約 2.3km の地点まで到達しました。また、旧旭・瀬谷地域サービスセンターや西谷浄水場敷地内の立坑築造工は、地下 50m を超える深さまで掘削する工事ですが、様々な現場課題を都度解決しながら工事を進めています（写真 5）。7 年度は、新たに鶴ヶ峰接合井立坑からシールド掘進を開始するなど（写真 6）、予定どおり 12 年度の工事完了を見込んでいます。

2 事業スケジュール

浄水処理施設について、レンガ混じり土砂の対応のため、耐震化と処理能力の増強は 10 年度から 12 年度に、粒状活性炭処理の導入は 14 年度から 16 年度に、それぞれ工事完了時期を見直しました。（図 4）

年度	R 3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
浄水処理施設 （DB 方式）		R4 年 4 月 契約 耐震化、処理能力の増強 R12 年度完了見込									粒状活性炭処理の導入 R16 年度完了見込			
排水処理施設 （DBO 方式）		R 3 年 6 月 契約 R 9 年度完了見込												
相模湖系導水路 （DB 方式）		R3 年 4 月 契約 R12 年度完了見込												

図 4 事業スケジュール（令和 7 年 5 月現在）



写真 1 旧配水池解体工



写真 2 レンガ片



写真 3 レンガ片の除去（手作業）



写真 4 脱水機棟築造工

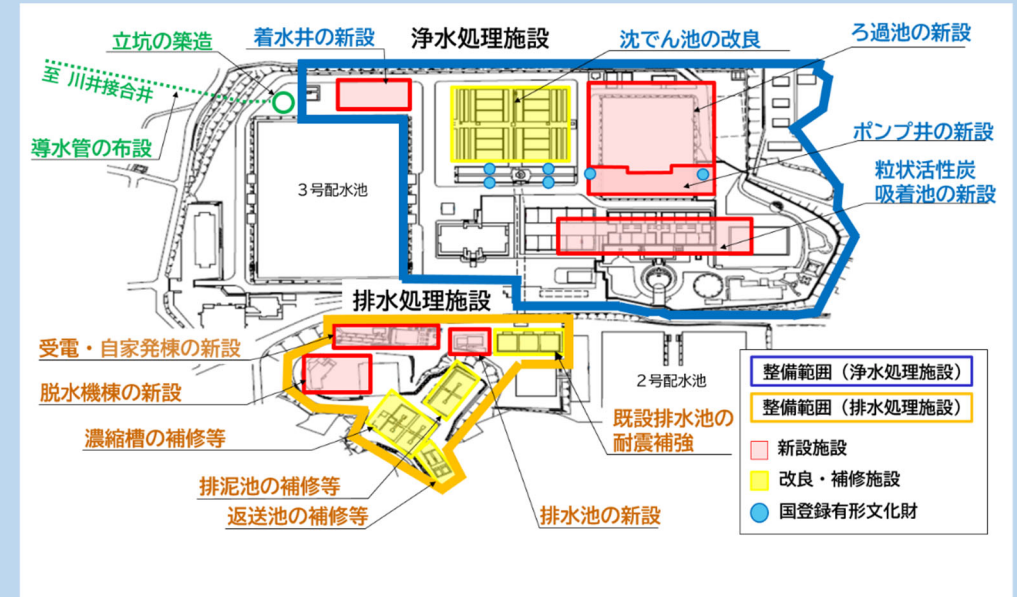


図 2 西谷浄水場の整備範囲

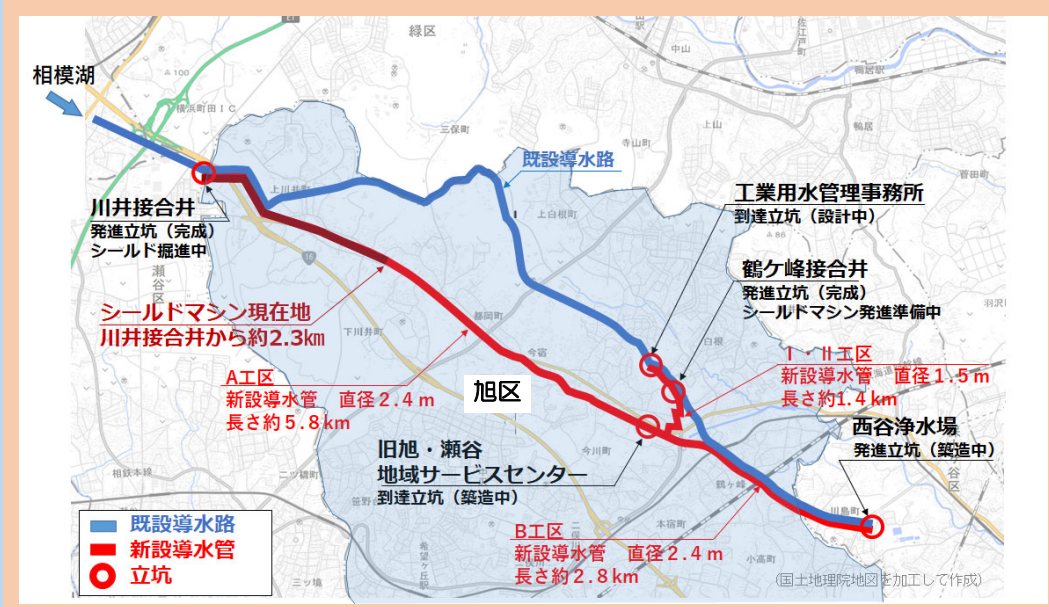


図 3 相模湖系導水路の整備範囲



写真 5 西谷立坑築造工

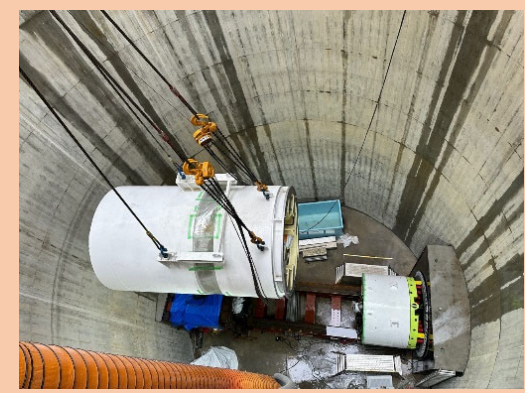


写真 6 鶴ヶ峰接合井シールド工

浄水処理施設完成予想図（令和 16 年度完了予定）



排水処理施設完成予想図（令和 9 年度完了予定）

